

協働の手引き・事例集の作成について

1. 作成物の現時点での想定内容

前回の委員会以降、アクションチーム会議を継続的に実施し、各種制作に向けた具体的な作成体制や方針等の検討を行っているところ。

(1) 事例集

①制作方針

多様な主体の協働によるまちづくりを推進し、まちづくりの担い手の裾野を広げていくため、協働の必要性や魅力が効果的に伝わる本市の協働事例集を新たに作成する。この事例集を通じて、未来の新たな担い手に向けたメッセージを力強く発信するとともに、本市の多様な協働事例を本市以外に向けてもPRしていく。

②読者想定対象

市民（活動の有無は問わない）、市民活動団体、企業、教育機関、市職員、市外活動者

③仕様

サイズ：B5

向き・カラー：タテ書き（一部ヨコ書き）、オールカラー

ページ数：80ページ程度

発行部数：約2,000部

※配布先として、市内市民活動団体、市内公所、市民協働関連イベント等での配布を想定。

④作成体制

監修：仙台市協働の手引き・事例集編集委員会（アクションチーム）※一部委託

取材・執筆：①市民ライター、②学生、③編集委員会（アクションチーム）関係者、④市民活動サポートセンター、⑤仙台市職員

事務局：仙台市市民協働推進課

⑤骨子

人に焦点を当てた内容とし、地域、年代、分野、性別等のバランスを考慮した25事例を通して、本市の市民協働によるまちづくりが多様な主体によって進められていることを紹介する。また、市民協働元年や東日本大震災前後といった協働の転換期にも着目しながら、本市の市民協働が地域性を活かして独自に発展してきた経緯を紹介するほか、将来の新たな担い手に向けたメッセージとして今後の市民協働の方向性を示す。

目次案

タイトル	内容
はじめに	
目次	
第1章： みんなでつくる「仙台スタイル」	特集事例を5つ紹介。活動内容だけでなく、協働を行う人々を双方向から取材し、活動に対する思いを丁寧に紹介する。
第2章： 市民協働宣言からの協働まちづくり	市内事例を定型フォーマットで20ほど紹介する。
第3章： マルチパートナーシップの時代へ	多様な主体による協働まちづくりの今後の方向性について、市民協働元年や東日本大震災等といった過去の転換期を織り込みながら、関係者の話等を交えて解説する。
索引／団体リスト、お役立ち情報、年表等 奥付 編集後記	

(2) 手引き

①制作方針

市職員及び市民の協働に対する理解を深め、協働による取り組みの推進を図るため、平成17年に発行された仙台協働本（こらぼん）の内容を踏まえつつ、その後の協働を取り巻く環境の変化にも対応した、協働のノウハウや事例を盛り込んだ手引きを作成する。

(i) 事例集の内容を踏まえた制作を行う。

事例集で収集した事例や、使用した写真等も活用するなど、時流に即しつつ、手に取りやすく親しみやすい内容を目指す。

(ii) 協働の経験や関心のある市職員の参加により作成する。

市民活動実践者や専門家のアドバイスもいただきながら、協働に関する庁内研修の受講者など、協働の経験や関心のある市職員の参加により、業務内容や職員の意識も踏まえ、わかりやすさ、使いやすさの視点に立った内容の検討を行う。

(iii) 使いやすく読みやすい構成とする。

見出しインデックスや索引を付けることで検索性を高めるとともに、参考書のように読みやすい構成とする。

②読者想定対象

市民（活動の有無は問わない）、市民活動団体、企業、教育機関、市職員

③仕様

サイズ：B5

向き・カラー：向き未定、モノクロ

ページ数：32ページ程度

発行部数：約2,000部

※事例集と同じ配布先を想定。

④作成体制

監 修：仙台市協働の手引き・事例集編集委員会（アクションチーム）※一部委託
 執筆：①編集委員会（アクションチーム）関係者、②仙台市職員
 事務局：仙台市市民協働推進課

(3) 映像・WEB・パネルの制作

- ①映像：仙台の協働の歴史がわかる素材や、取材で集めた素材をもとに、ナレーションを加えて映像化する。
- ②WEB：市公式HPのみの掲載とするか、独自ドメインを取得したサイトとするかを検討中。
- ③パネル：事例集の内容紹介をメインとし、手引きの概略も紹介する。

2. 今後のスケジュール

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
事例集	骨子及び作成体制の検討、掲載事例収集		骨子取りまとめ	● 第1回委員会	取材及び執筆	● 第2回委員会		校正		印刷	完成・配布開始	
手引き				実施体制の検討	骨子取りまとめ	執筆		校正		印刷	完成・配布開始	
映像・WEB・パネル						制作開始					(順次)情報発信開始	